



Q：パーキンソン病について教えてください。

A：パーキンソン病は、主に50歳以降に発症し、徐々に進行する原因不明の神経変性疾患です。中脳の黒質というところの神経細胞の変性により、神経伝達物質の一つであるドパミンが減少して起こると考えられています。

症状は最初は片側だけですが、進行すると反対側にも現れるようになり、寝たきりになることもあります。じっとしているときに手足がふるえる(安静時振戦)、動作が遅くなる(無動)、筋肉がこわばってカクカクと引っかかるように動く(歯車様固縮)、姿勢を

保てなくなり転びやすくなる(姿勢反射障害)というのが特徴で4大症状と言われます。さらに、顔の表情が乏しく(仮面様顔貌)、小声、小書字となり、姿勢が少し前屈みで歩き方が小刻みとなり、歩き始めの最初の一歩がすくんでなかなか出ないなどが代表的な運動症状です。また非運動症状



として、便秘や頻尿、立ちくらみなどの自律神経症状、不眠などの睡眠障害、意欲や自覚性の低下などの精神症状などもみられます。

(岡田俊一・おかだ内科クリニック院長、甲府市北口2-9-12、ニシコー北口駅前ビル2F)

☎055・2888・1801